

(様式5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立志貴野高等学校・教諭・松井 優子
- 2 研修期間 令和6年7月25日(木) 1日間
- 3 調査研究課題 視野を広げ、「人間力」をもった子どもたちの育成につなげる
- 4 研修機関等 株式会社インテック大山研修センター
- 5 研修の概要

(1) はじめに

私の研修の目的は、教員としての視野を広げ、「人間力」をもった子どもたちの育成につなげることである。各企業人のこれまでの経験から感じたことを、これからの教育に活かし、主体的に社会へ向けて発信できる生徒の育成について考える機会とする。

(2) 研修内容

講演①「人間力について考えよう！」 株式会社MGG 代表取締役社長 牧田 和樹 氏
「人をどのように動かすか」そのために必要な要素は何か。情緒的対応（あふれる人間味）と論理的対応（筋の通ったわかりやすい思考や説明）をバランスよく活用することで、よりよい人間関係の構築に繋がる。教育現場で、親以外の大人と最初に出会うのは、教師である。生徒同士がお互いに高め合う中で、新しい創造力や発想が生まれる。新しい社会を創り、担っていきける生徒を育てることが教師として大切であると改めて考えさせられた。

講演②「自分らしく働く」 YKK株式会社 副社長 黒部事業所長 小林 聖子 氏
いくつかの「偶然の出来事」によって、今の自分がある。例えば、「自分の意思に忠実だった」「これまでの経験からの気づきがあった」「運が良かった」「順応性が高かった」など、様々ある。それらの「偶然の出来事」を活かすためには、オープンマインドであること。そして、「運」はどこに転がっているかわからないので、常に「運」を逃さない準備をしておくことが大切である。そして自分らしく生きるためには、何が好きで、何ができて、何に価値を見出しているのか自分自身を知っていることが重要であるということ学んだ。教員として、生徒たちが体験する様々な機会を通して、その生徒ならではの取り組みや創造性、気づきを大切に、伸ばしていきたい。

講演③「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」

株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充 氏

育った場所や生育環境が悪い、お金がないからできないということは一つもない。繰り返し努力できる人がチェンジメーカーになれる。そのためには、「メンター（相談役）」と「アンカー（初心を忘れないアイテム等）」が必要である。高校生に目的を持たせるためには、普段絶対に行かないコミュニティで、怒ったり、笑ったり、泣いたりしながら、いろいろなことを自分で考えて生活することを学んでから、教育を受ける。その後の子どもの吸収力は凄まじくやりたいことも見つかるだろう。また、世界と今後競っていくためには、スタートアップできる企業を日本でもっと増やす必要がある。アントレプレナーシップ教育をいかしもっと若い学生を支援し、日本の未来を支える企業を増やしていく必要がある。生徒が興味をもち取り組んでいることや好きなことを見つけることが、将来の目標や仕事につながることで、そしてあきらめずに人一倍努力することの大切さを伝えていきたい。

(3) 終わりに

今回の研修では、それぞれの方の経験を基にご講演いただいた。同じ経験をすることは難しいが、どの方も「どうしたら（それを達成）できるか」を常に前向き考え、行動し続けたこと、あきらめずチャレンジし続けてきた結果が、現在に繋がっていると感じた。教員として生徒が自ら考え、自ら進んで学びたいと思える題材選びや社会の動向、地域の身近な教材を授業とどのように関連付けて新しい解決策が提案できるかなど、未来を担う生徒の学びを深められるよう、さらなる自己研鑽が必要であると実感した。本研修は、多角的な視点で物事をとらえ、生徒の学びが深まる授業づくりに努めたいと改めて考える機会となった。富山経済同友会及び富山県教育委員会の皆様には、このような研修の機会を与えていただき心より感謝申し上げます。